誘致企業が選んだ

青森のOh!ススメ

青森でご活躍されている誘致企業の皆様が実際に触れてみて良かった、楽しかった、今後行ってみたい青森の祭り、温もり、文化・歴史・食をご紹介します。

青森リバーテクノ株式会社
代表取締役社長　萩原 義久さん

Oh!ススメ

三菱製紙株式会社八戸工場
常務執行役員工場長　山田 清春さん

Oh!ススメ

田んぼアート

津軽地方の中心部にある田舎館村で、毎年行われている「田んぼアート」。水田をキャンバスに見立て、つがるロマンや古代米の7色の稲で絵画が描かれます。遠近法を採り入れるなど、そのクオリティの高さには誰もが感動します。

館鼻岸壁朝市

3月から12月の日曜日に八戸市で行われている朝市。約800m続く通路の両側に、魚介類や青果、雑貨、飲食店など300店以上の店が並びます。新鮮な食材を安価で買えるとあって、毎週1万人以上の人が訪れており、今や日本最大規模の朝市といわれています。

ホヤ

青森では「七子八珍（魚卵と珍味）」のひとつに挙げられており、オレンジ色のデコボコした外見から「海のパイナップル」と呼ばれています。むき身を刺身で食べると、ほろ苦さと磯の風味が口に広がり、日本酒にとても合います。

いちご煮

太平洋側の県南地域の郷土料理で、ウニとアワビを煮立て、青ジソを入れたシンプルなお吸い物。煮たウニの形が山いちごに似ていることから名付けられたもので、あっさりした味とシソの香りが何ともいえない贅沢な料理です。

奥入瀬渓流

十和田湖の子ノ口から焼山までの約14キロの渓流。自然林に覆われるなか、瀬を早めたり淵によどんだりと、躍動感に溢れる景観が展開し、訪れる人を感動させてやみません。なかでも遊歩道からの銚子大滝は必見です。

櫛引八幡宮

鎌倉時代以降の由緒ある神社で、桃山時代の威風が感じられる名建築といわれています。多くの文化財が残されており、中でも、杉木立ちの中に建つ「国宝館」には、国宝指定の「赤糸威鎧（あかいとおどしよろい）」と「白糸威褄取鎧（しらいとおどしつまどりよろい）」が展示されています。

竜泊ライン

竜飛岬から日本海側の小泊まで約20キロ続く「竜泊ライン」。紺碧の日本海を臨む曲がりくねった山道の途中には、眺瞰台（展望台）や七ツ滝、奇岩の続く海岸などの名所があり、魅力ある変化に富んでいます。

八戸三社大祭

300年余りの歴史を誇り、昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された日本一の山車祭り。おがみ神社、新羅神社、神明宮の三社の神輿と、神話、伝説、歌舞伎などを題材とした27台の山車が、見事な山車絵巻を繰り広げます。

企業立地のご相談・お問合せ

青森県 商工労働部 産業立地推進課
〒030-8570 青森市長島1-1-1
TEL.017-734-9381　FAX.017-734-8109
E-mail:kogyo@pref.aomori.lg.jp

青森県 東京事務所 産業立地推進課
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館7階
TEL.03-5212-9113 FAX.03-5212-9114
E-mail:A-TOKYO@pref.aomori.lg.jp

青森県 名古屋産業立地センター
〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル8階
TEL.052-259-7688　FAX.052-259-7805
E-mail:a-nagoya@pref.aomori.lg.jp

青森県 大阪情報センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階
TEL.06-6341-2184　FAX.06-6341-7979
E-mail:a-oosaka@pref.aomori.lg.jp

青森県 福岡情報センター
〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-34 住友生命福岡ビル1階みちのく夢プラザ
TEL.092-736-1129　FAX.092-716-2037
E-mail:a-fukuoka@pref.aomori.lg.jp

「青森県産業立地ガイド」ホームページ

青森　産業立地　検索

http://aomori-ritti-guide.jp

青森Biz通信

知ってください！新・青森力

AOMORI
青森県企業誘致推進協議会
〒030-8570 青森市長島1-1-1
tel.017-734-9380（直通）

［平成29年2月号］

立地の決め手は、あおもり人財力！

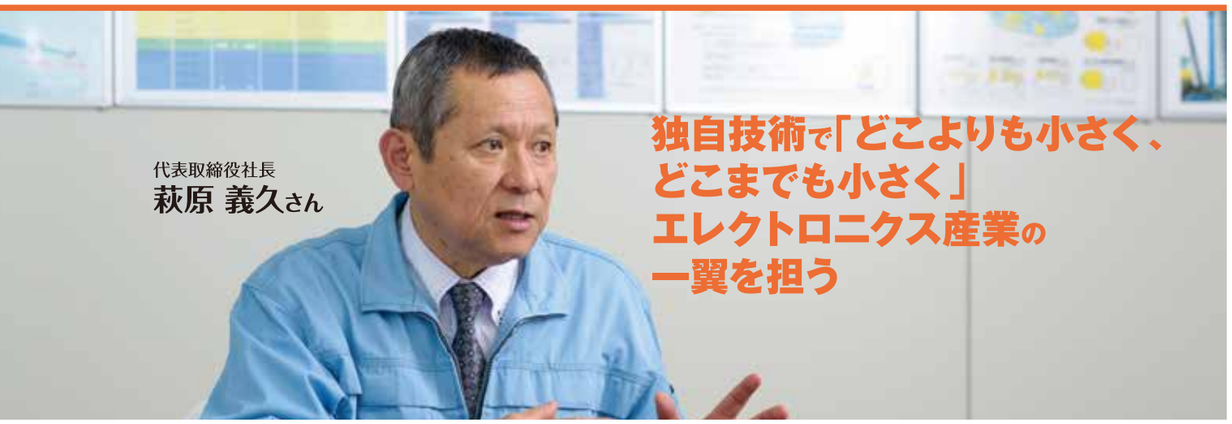
【本県操業50周年 Special interview】

独自技術で「どこよりも小さく、どこまでも小さく」エレクトロニクス産業の一翼を担う
青森リバーテクノ株式会社

Special interview 50th anniversary the operation of the prefecture

技術の力で社会に貢献する青森県の誘致企業第一号として操業50周年
三菱製紙株式会社八戸工場

青森リバーテクノ株式会社

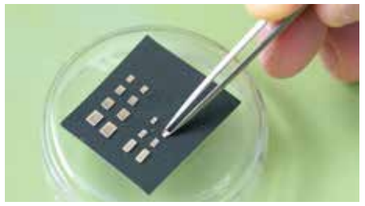


代表取締役社長
萩原 義久さん

独自技術で「どこよりも小さく、どこまでも小さく」エレクトロニクス産業の一翼を担う

身近な電子機器に使われている水晶デバイス

当社は、水晶振動子や水晶発振器を中心とした水晶デバイスのメーカーであり、エレクトロニクス産業の一翼を担っている会社です。当社の水晶デバイスは、自動車、カーナビ、デジタルカメラ、スマートフォン・携帯電話、パソコン、時計など、誰もが使っている身近な電子機器に利用されています。



水晶には、機械的な圧力をかけると表面に電気を発生し、逆に電圧をかけると変形し振動するという性質があります。この性質を利用しているのが水晶振動子であり、水晶片に交流電圧をかけることにより共振を起こし、精度の高い周波数を発振させ、この周波数を電気信号として取り出し、各種電子回路に利用しています。また、一定の周期で振動する水晶の性質を応用して作られたのがクォーツ時計です。このように、水晶デバイスは、安定した周波数を維持する役割と、規則正しい時間を計測する役割をもっているのです。

当社では、「どこよりも小さく、どこまでも小さく」を製品開発のコンセプトとして掲げています。1955年にソニーが発明した世界初の小型トランジスタラジオに当社の抵抗器が採用されたことをきっかけに、それ以来、製品の小型化に力を注いできました。

小型化のための技術の一つとして、1998年に当社が開発したのが、電子ビームの細い線で金属を溶かし、微細な加工を実現する「電子ビームによる気密封止工法」です。この技術は当社独自のものであり、特許を取得しています。

現在、最も小さい水晶振動子は、1.2㎜×1.0㎜まで小型化することに成功しており、日々、世界最小に向けた製品開発に取り組んでいます。

青森県で操業して50年、はじめは廃校の利用から

現在、青森県内には、平川市の平賀工場とつがる市の車力工場、そして青森市の本社工場の3つの工場があります。平賀工場は、1966年に青森県の誘致企業として操業し、昨年11月に50周年を迎えました。

当時を知る人からは、豊富な人材を求めて青森県に進出したと聞いており、最盛期には、青森県内の7工場で1,000人を超える従業員が働いていました。平賀工場や車力工場などは、学校の統廃合で廃校になった校舎を、自治体からほぼ無償で提供してもらい、工場として改装して操業しました。学校の横長の構造は、抵抗器の製造に使う長いベルトコンベアを入れるのに丁度良かったそうです。また、進出にあたっては、九州などの地域も候補としてありましたが、めったに台風が来ない環境も一つの要因となったと聞いています。

操業当初は、主に抵抗器を作っていましたが、カラーテレビの開発・普及に伴い、水晶デバイスに対する需要増加が予想されたことから、主要製品を抵抗器から水晶デバイスに切替えて、これまで取り組んできました。

今後は、IoTの普及に伴って、通信機器が増加することや、医療分野の機械設備の電子化により、水晶デバイスの需要が増えていくと予想されています。一方、1つの業態で長年続けることは難しく、先人が水晶デバイスの製造に切り替えたように、新たな製品の開発に取り組んでいかなければなりません。そのためには、既存製品の信頼性、精度の高さを磨きながら、独自の技術を追求していくことが必要だと考えています。

人材の質が高く、少数精鋭の企業に向く青森県

青森県の人材はものすごくよく働き、特に女性の働きぶりが顕著です。平賀工場では、最盛期に月間5～7億個の抵抗器を作っていましたが、女性の活躍なくして達成できなかったと思います。男性も、決められた目標を達成しようとする責任感が強く、粘り強く仕事に取り組み、良い意味で愚直であると感じています。

首都圏や本社のある山梨県との往復は、かつては寝台列車しかなく不便でしたが、今は新幹線があるので便利です。また、韓国との直行便があり、取引先の関係者を青森にいつでも呼べる環境にあります。

近年は従業員を採用しにくい時代となっていますが、外国にはない優秀な作業員や質の高い管理者を求める少数精鋭の企業にとって、青森県は向いているのではと思います。

青森リバーテクノ株式会社
本社工場　(操業　1991年 4月)
〒030-0142 青森県青森市野木字山口245-11
平賀工場　(操業　1966年11月)
〒036-0151 青森県平川市石郷字柳田38-1
車力工場　(操業　1973年 8月)
〒038-3301 青森県つがる市富萢町字藪分41-1
従業員数　266人(2017年1月1日現在　県内合計)
事業内容　水晶デバイスの開発・製造・販売

三菱製紙株式会社八戸工場

常務執行役員工場長
山田 清春さん

技術の力で社会に貢献する青森県の誘致企業第一号として操業50周年

ニーズを捉えた商品で情報文化の発展に寄与

当社は1898年に創業し、付加価値の高い印刷用紙を開発・製造・販売する製紙会社として、情報文化の発展に寄与してきました。紙と言っても種類は多岐にわたっており、オフセット印刷などに対応する印刷用紙のみならず、感圧、感熱、磁気、電子写真、銀塩写真、インクジェットなど、多様な記録方式に対応するメディアの開発・製造を手掛けています。

八戸工場は、1963年に青森県の誘致企業第一号に認定され、1967年にパルプから紙まで一貫生産する工場として操業を開始し、今年で操業50周年を迎えました。

時代の遷り変わりに合わせて、世の中の紙に対するニーズも変化してきました。操業当時は、お菓子やアイスクリームの包装箱として使われる白板紙や、写真集等に使われるアート紙を製造していましたが、現在は主に、カタログやカレンダー、書籍に使われる印刷用紙や、コピー用紙、レジロールなどに使われる感熱紙、伝票などに使われる感圧紙、インクジェット用紙といった情報用紙を製造しています。

次代のニーズを的確に捉えた付加価値の高い商品を開発するため、順次工場を拡張し、生産規模は操業開始時と比べて約10倍となりました。今では、最大の生産拠点であり、当社売上の約6割を占める基幹工場になるまで成長してきました。

八戸を選んだ一番の理由として、原材料の輸入や製品の輸送に有利な港が近いことがありました。臨海型の一貫工場でコスト競争力が高いことが、当工場最大の強みであり、この立地環境があったからこそ、50年やってこられたのだと感じています。その他にも、紙を製造するために不可欠な豊富な水資源を、近くを流れる馬淵川から確保できたこと、質の高い人材を豊富に抱えていることなどが立地する要因となりました。

近年は、印刷物のデジタル化が進み、紙に対する需要が減ってきています。当工場で製造している紙の種類も、かつては印刷用紙が約9割を占めていましたが、近年は印刷用紙の割合が減り、情報用紙が約3割を占めるまでに変化してきました。

今後も製紙事業が当社の主力事業であることに変わりはありませんが、世の中の動きに合わせて少しずつ業態変化していかなくてはならないと考えています。その一環として、近年、製紙事業の他にバイオマスボイラーによる発電事業や、イチゴ栽培、造粒灰製造などの事業も手掛けています。これからも、世の中のニーズを的確に見極めて、これまで培ってきた技術の力で社会に貢献していきたいと考えています。

東日本大震災を乗り越える従業員の団結力

東日本大震災の津波により、工場1階に設置していたモーターや配電盤などの電気設備が浸水しました。被災当時は、いつ復旧できるかわからない状況で唖然としましたが、すぐに従業員が復旧作業に取り掛かってくれました。一台一台全て分解・洗浄するという根気の必要な作業が続きましたが、従業員の努力のおかげで、早い機械では約2か月で復旧することができました。

最終的に、完全復旧には約8か月間の期間を要しましたが、国をはじめ青森県や八戸市といった行政による支援や、近隣企業等の支え、従業員の団結力によって苦難を乗り越えることができました。このような環境があるからこそ、長年続けてこられたと感じています。

粘り強い人材と優れた立地環境

従業員の多くは青森県や近県の出身者であり、非常に真面目で粘り強く優秀な人が多いと感じています。当工場が立地している八戸市には、工業大学や工業高校があるため、全国的に見ても良い人材を採用しやすい環境にあると思います。

また、青森県の特徴として暮らしやすいことも挙げられます。夏は冷涼な気候が続き、冬も八戸市などの太平洋側の地域は雪がほとんど積もらないため、不便を感じません。三陸復興国立公園内にあり、国の名勝に指定されている種差海岸など、風光明媚な場所がたくさんあり、子育てもしやすい環境にあると思います。

八戸市から首都圏までは、新幹線を利用すれば3時間ほどで移動できるため、本社での会議などの際も便利です。首都圏に比べれば土地も安く、当社のような広大な敷地を求める企業にとって、非常に魅力的な環境だと思います。

三菱製紙株式会社八戸工場
〒039-1197
青森県八戸市大字河原木字青森谷地
操業年月　1967年1月
従業員数　859人(平成28年3月末現在)
事業内容　パルプ・紙製品の開発・製造・販売